

#49

横浜沿革誌

おおた・ひさよし

作者: 太田久好(1848-1898) ほか

成立: 明治25年(1892)

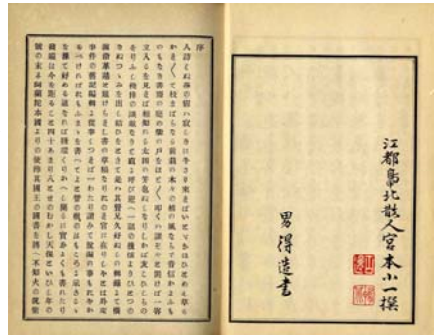


解題

Keyword

- 横浜
- 歴史年表
- 横浜開港
- 宮本小一
- 坂田諸遠
- もののはじめ
- 職業別人名簿

明治25(1892)年に刊行された初めての横浜の歴史年表。安政6年(1859)の横浜開港から明治24年(1891)までの横浜の沿革が編年体で綴られている。横浜の歴史を知るための基本資料である。



『横浜沿革誌』序 東洋社

■ 成立経緯

編者の太田久好の例言には、「横浜沿革の如きは未だ其記録あるを見ず、抑、横浜は五港に冠たるの地、其沿革の記すべきもの尠しとせず、久きを経て其伝を失う如きあらば、遺憾に堪へざる所たり、是れ予が此編を編纂する所以なり」とあり、横浜の歴史が記録されないまま失われてしまうことを憂えて、この資料の編纂にとりかかったようである。序によると、太田久好が編纂した原稿に、宮本小一、坂田諸遠が目を通し、明治初年までの記事に校閲、加筆している。また久好の弟、芳也が本書の完成、刊行に尽力したこともうかがえる。

■ 作者

編者・太田久好は、嘉永元年(1848)武蔵国に生まれる。父唯助が在職していた縁で、文久2年(1862)15歳で神奈川奉行所に同心雇として勤め始める。慶応3年(1867)の神奈川奉行「明細帳」によると、祖父縫殿助は元

松平相模守家来とされている。奉行所在勤当時の先輩には先述の宮本小一、加藤葛満(『文明開化』の著者)などがいる。

明治以後は引き続き神奈川県に勤務。明治4年には市政掛、明治8年に租税課、録事課、9年に勸業課に勤務している。明治20年6月、神奈川県五等属、判任官五等で退職、時に40歳であった。県庁時代の先輩には吉永良延(『千草叢誌』の発行者)がいる。

本書の刊行は明治25年、45歳の時である。奥付には「神奈川県武蔵國南多摩郡八王子町本町六十七番地 神奈川県士族太田久好」とある。6年後の明治31年、51歳で没し、青山墓地に葬られた。墓碑銘には「有横浜沿革誌之著書」と記されている。

校閲、加筆をした坂田諸遠は、文化7年(1810)筑前国に生まれる(文化8年とする説もある)。長じて秋月藩士坂田諸保の養嗣となったとされる。本人が作成した履歴によると、天保8年から安政5年までの22年間秋月藩で記録方および弓馬故実師範を勤めたという。明治に入り長崎鎮守総督府に勤務した後、明治3年、62歳の高齢で外務省に登用される。その後明治18年に職を退くまで『続通信全覽』その他多くの資料の編纂を直接手がけた。明治12年にはその功労を賞され、勲六等に叙されている。

坂田の蔵書は1万5千冊に及び、多くの日本各地の古地図をも含んでおり、坂田自身による写本(「元龜天正年中江戸辺之図」)もある。現在東京大学総合図書館の南葵文庫の一部として収蔵されている。また福岡大学図書館では外交史の基礎となる諸史料と、諸遠の蔵書総目録を含む坂田諸遠文書36点を所蔵している。明治30年(1897)没。

同じく校閲、加筆をした宮本小一は、天保7年(1836)幕府徒目付宮本久平の長男として誕生。神奈川奉行所に勤めた後、外国官御用掛となり明治新政府の外交事務に従事。外務省が設置されると引き続き勤務し、各国王族、外国賓客の接伴、樺太境界談判、日朝修好条規の調印、吹田事件の処理、琉球問題解決をめぐる対清外交など、明治前半の日本外交において重要な役割を果たした。明治16年には元老院議員に任ぜられ、後に貴族院議員を務めた。大正5年(1916)死去。

坂田は久好の弟芳也の外務省時代の上司である。宮本は久好の神奈川奉行所時代の上司であり、芳也の外務省在職時の上司でもある。題言の寺島宗則は同じく外務省在職時の長官である。

■ 内 容

安政6年(1859)の横浜開港から明治24年11月までの横浜の沿革を編年体で綴ったもの。例言に「当時人口に膾炙し、苟も本港の盛衰に関するものは細大漏らさず之れを記載す、要するに人情・風俗・地位・変換・貿易の進歩等、読者をして其沿革を知り易からしむるのみ」とあるように、横浜の政治・経済・文化に関するさまざまな事柄を記述している。また、開港以前の事柄も、沿革にかかわりのあるもの、開港以後に参照すべきことは記述して

いる。「公文及諸記録見聞に由り」編纂したという。

現在からみると、多くの事項の脱落や誤りもあるが、明治初期の横浜の沿革を同時代人が記録したという点で、なお高い価値をもっている。明治初期の横浜の歴史を語る際には、参考資料としてその記述が引用されることがなはだ多い。

また「之を以て嚆矢とす」というかたちで多くの「もののはじめ」に関する事項が収録されていることも特筆される。



史料本文を読む

<原本>

- 『横浜沿革誌』 太田久好編 東洋社 1892 [K26.1/3]
※現在は入手困難 国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」、横浜市立図書館「YOKOHAMA'S MEMORY」などによって、HP上で閲覧可

<覆刻本>

- ◆ 「横浜沿革誌」 太田久好編（『横浜社会辞彙』 日比野重郎編集 横浜通信社 1917 [K03.1/1]） ※本文のみ題言、例言、一部の地図は未収録
- 『横浜沿革誌』 太田久好編 石井光太郎校訂 有隣堂 1970 [K26.1/3A]
※解題を付し、誤謬、誤植を改めている
- * 『横浜沿革誌』 太田久好編 白話社 1974
- ◆ 「横浜沿革誌」 太田久好編（『横浜近代史事典』 日比野重郎編集 湘南堂書店 1986 [K03.1/1A]）
※『横浜社会辞彙』の改題復刻版 本文のみ 題言、例言、一部の地図は未収録



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆ 石井光太郎「横浜本発掘誌Ⅱ-はじめての年表」（『横浜の本と文化』 横浜市中央図書館 1994 [K02.1/36]）

<作者について>

- ◆ 石井光太郎「太田久好」（『横浜の本と文化』 別冊 横浜市中央図書館 1994 [K02.1/36/2]）
- ◆ 田中正弘「解説 正統『通信全覧』の概要と編纂の沿革」（『通信全覧総目録・解説』 雄松堂出版 1989 [K25/137]）
- ◆ 今井庄次「『続通信全覧』と坂田諸遠」（『日本歴史』（173） 吉川弘文館 1962 [Z210.05/3]）